

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月4日

【評価実施概要】

事業所番号	873100929		
法人名	(有)大樹		
事業所名	グループホーム大樹		
所在地	茨城県越前1993 (電話) 029-291-1717		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年9月26日	評価確定日	平成20年3月12日

【情報提供票より】(平成19年8月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年7月23日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤8人, 非常勤8人,	常勤換算6.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋コロニアル 造り		
	1階建の ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 0 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(8月20日現在)

利用者人数	17 名	男性 8 名	女性 9 名
要介護1	5	要介護2	2
要介護3	5	要介護4	4
要介護5	1	要支援2	
年齢 平均	82 歳	最低 68 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	笠間市立病院	館野歯科医院	金敷内科医院
---------	--------	--------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは「利用者一人ひとりの人格の尊重と、住み慣れた地域での生活支援」の理念の基に、管理者・職員が常に理念について話し合うとともに、実践に向けて取り組んでいる。
介護計画は本人や家族・職員等の意見を聞き話し合って作成しており、作成後は設定期間の見直し、利用者の状態に変化があった時、家族の要望等の実情に応じた見直しをしている。
利用者との関係は、日々の生活の中でお互いに教えたり教えられたり、また、感謝の言葉が聞こえる暖かな関係が構築されており、利用者が安心して生活できるよう支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価の課題について、運営者と職員が会議で話し合い、広報やパンフレットの配布、研修会等の報告、書類・記録保管場所の確保、申し送りを徹底する等の改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) サービス評価の意義や目的について全職員に伝えているが、自己評価は一部の職員のみで話し合い作成しているため、各ユニットごと全職員で作成することを期待する。 外部評価の結果については全職員で会議にて話し合い、サービスの質の向上に努めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議の委員を選出しているが、会議を実施するまでには至っていない。 運営推進会議の開催に向け準備をしているため、外部評価の結果やホームの実情等を報告するなど、意見交換を行い、話し合いの結果をサービスに反映する取り組みを期待する。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 契約書に苦情に関する相談機関を明示するとともに、説明している。 多くの家族はこまめに面会に来ており、職員は家族訪問時を利用して不満や要望等を聞いている。 また、家族からの不満や意見、要望等について、職員会議等で話し合い意見をサービスに反映している。 訪問が少ない家族の意見等が反映できるようアンケートの実施や意見箱の設置等の取り組みを期待する。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の子どもたちと交流しているが、自治会、老人会、地域行事等へ参加するまでには至っていないため、地域の一員として、地域の祭りや行事等へ積極的に参加し、地域の人々と交流していく取り組みを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の人格を尊重し、地域の一員としてその人らしく生活できるよう、地域生活の継続支援を目指したこれまでの理念を継続している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員はカンファレンスや日々のかかわりの中で、理念について話し合い、実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の子どもたちと交流しているが、自治会、老人会、地域行事等へ参加するまでには至っていない。	○	地域の一員として、地元の祭りや行事等へ積極的に参加し、地域の人々と交流していく取り組みを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の課題について、運営者と職員が会議で話し合い、広報やパンフレットの配布、研修会等の報告、書類・記録保管場所の確保、申し送りを徹底する等の改善に取り組んでいる。 サービス評価の意義や目的について全職員に伝えているが、自己評価は一部の職員のみで話し合い作成している。	○	自己評価に取り組むにあたり、ユニットごとに全職員で作成する取り組みを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の委員を選出しているが、会議を実施するまでには至っていない。	○	運営推進会議の開催に向け準備をしているので、外部評価の結果やホームの実情等を報告するなど、意見交換を行い、話し合いの結果をサービスに反映する取り組みを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の手続きや事業推進にあたり、市の担当者が訪問するなど、連携をとれる体制を構築している。	○	今後はホームの課題の解決に向け、保健師や教育委員会・社会福祉協議会・図書館・福祉センター等の機関に働きかけ、職員の研修やホームの行事等に生かす取り組みを提案する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の状況を家族の訪問時に具体的に報告するとともに、電話でも報告している。 また、広報紙を利用して暮らしぶりを伝えたり、毎月の請求書送付時に合わせて金銭管理状況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書に苦情に関する相談機関を明示するとともに、説明している。 多くの家族はこまめに面会に来ており、職員は家族訪問時を利用して不満や要望等を聞いている。 また、家族からの不満や意見、要望等について、職員会議等で話し合い意見をサービスに反映している。	○	訪問が少ない家族の意見等が反映できるようアンケートの実施や意見箱の設置等の取り組みを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新ユニットの設立時に、内部研修を兼ねて職員の交流・異動を行っている。 また、職員休暇時等に備え、職員と利用者が顔なじみの関係を築けるよう配慮している。 新規採用者・退職する職員は、利用者や家族の面会時等に紹介している。	○	顔なじみの職員によるケアが継続できるよう更なる努力・工夫することを提案する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の採用時や職種に応じた研修を行っている。 また、カンファレンスや引継ぎ時に研修報告をしており、全職員が研修内容について把握している。	○	職員全員が参加できるように内部研修の実施等を検討することを提案する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のホーム職員の実習を受け入れるなど、同業者と交流している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に事業所を見学してもらい、家族・利用者が安心して利用できるよう話し合いをしている。 また、利用開始にあたり、家族や関わりのある方々に訪問を依頼するなど、不安なく利用できるよう働きかけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者とともに、喜んだり教えられたり励まされたり等、学び支えあう関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者と日々のかかわりの中で、一人ひとりに声をかけ、言葉や表情、動作等から本人の思いや意向を把握できるよう努めている。 また、家族や関係者より情報を得るなど、利用者一人ひとりの希望に添えるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族・関係者・職員等と話し合い、アセスメントに基づき介護計画を作成している。 介護計画の作成後に、家族に確認を取り、家族の確認印を押印している。 また、職員全員でカンファレンス・モニタリングを行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	家族や本人の要望や変化に応じて、本人・家族・職員等と話し合い、新たな介護計画の作成や定期的な計画の見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の希望に応じ、通院介助や買い物・家族の宿泊支援・往診・早期退院等に向けた取り組みなど、柔軟に支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望するかかりつけ医に、通院するなど、受診を支援している。 また、月1回の往診が受けられる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態に応じて本人・家族・医療機関・職員等で話し合いを持ち、重度化に向けた対応方針の共有を図っている。	○	利用者の重度化に伴う意思確認書等の様式を作成し、家族等に意思確認を行うことを提案する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮したケアに取り組んでいる。 また、個人情報に関する書類等は決められた場所に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや体調、本人の気持ちを尊重しながら、柔軟に対応している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で利用者と一緒に採った野菜、運営者手作りの米や野菜を使用している。利用者は配膳や下膳、材料を切る等できることを職員と一緒にやっているが、職員と利用者が食事を楽しむことができる環境づくりが十分ではない。	○	利用者と職員が同じテーブルで、会話をしながら食事を楽しむことができる環境づくりの検討を期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望により清拭や足浴等を実施しているが、入浴日は週2回と決められており、利用者の希望にそった入浴支援をするまでには至っていない。	○	利用者や家族の希望に添った入浴の支援ができるよう取組むことを期待する。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりにあった配膳や下膳、食事の準備、野菜の手入れ、観葉植物や花等の世話、散歩、居室や玄関の掃除等、できる事や楽しみなことに取組めるよう場面づくりの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望により散歩やユニットごとの交流、買い物等へ出かけている。また、家族による買い物や墓参り・通院介助等の支援がある。	○	利用者の気分転換やストレスの発散、五感を刺激する機会として、積極的に買い物やドライブ、楽しみごとの行事等、日常的に外出できる機会を設けることを提案する。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出するときは、職員と一緒についていく等の支援をしている。日中も玄関には鍵を掛けておらず、利用者の安全面に配慮した自由な暮らしを支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て避難訓練を実施し、避難場所も地域の方の協力を得て決定している。 また、災害時のマニュアルを作成している。	○	今後は事業所だけの訓練ではなく、地域の方々の参加・協力を得られるよう働きかけることを提案する。 また、非常時に備え、食料品等の災害物品を準備することを提案する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は季節の野菜を中心に、行事用のメニューを作成している。 職員は利用者の食事量や水分量、摂取カロリー等を把握している。 また、利用者の身体機能に応じた量や刻み食などを提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関入り口には木製の郵便箱や箒等があり、玄関内には季節の花や木製の椅子、畳の部屋等、利用者の活動に配慮して設置するとともに、フロアにソファを設置するなど、一人で過ごせる居場所を確保している。 また、食事準備の音や匂い・テレビの声・窓の開閉や採光・デッキからの庭や畑の観察等五感刺激を配慮し、居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人や家族と相談し、時計や写真・机や椅子・花や手作り品・テレビや小物入れ、位牌等の馴染みの物や使い慣れたものを持込でおり、利用者は安心して暮らしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。